

# 専念寺通信

2月号 (NO.174) <http://sennenji.s296.xrea.com/>

1月に雪が降りました。2月に入り、まだまだ気温の低い日が続いています。皆さまお変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。

## ☆ 節分

2月3日は節分です。節分は本来、よっつの季節の始まりの日を意味しました。立春、立夏、立秋、立冬の前の日のことを、せつぶん、または、せちぶんと呼んでいました。「季節を分けること」を意味する言葉です。江戸時代以降は、毎年、立春の前日をさして呼ぶようになりました。節分といえば、豆まきです。みなさんのご家庭でも、お父さんが鬼になったり、幼稚園の頃は先生が鬼になったりして、鬼をめがけて豆を撒いた経験がおありではないでしょうか。家族の誰かが鬼にならなくても、見えない鬼にむかって「鬼は外、福は内！」と声を出して撒きます。豆を撒くことには、邪気を払い、

一年の無病息災を祈願する意味があるとされています。節分当日、テレビのニュースなどでお相撲さんや芸能人が神社仏閣で豆を撒いている様子が映されたりします。また、「年の数だけ豆を食べると縁起がよい。」と言われています。最近では、関西から始まった「恵方巻き」という一種の太巻きをその年の「恵方」に向かって食べる習慣も出てきています。どのような行事も習慣も、自分自身の信じるころによって、行えばよいと思います。12月のクリスマス商戦、終わるとお正月の福袋、そしてバレンタイン商戦、ホ



ワイト・デーに雛祭りに、端午の節句に…と、物を売りたい人たちは躍起になってイベントを続行します。そのどれをもしなくてはならないということは、ありません。当然のことですが一番たいせつなのは気持ちの持ちようです。「祈る」思いの強さです。恵方巻きが食べられなくとも、バレンタインにチョコレートが一枚も貰えなくとも、あなた自身の人生には何の影響もありません。そのような行事を大がかりに「企画」する企業があるので、また、逆に言えばそのような行事を「楽しむ」余裕のある国に私たちは生きているのだ、とも言えます。

☆ **急がない** テレビ・コマーシャルで「いま、これが新しい！」と声高に言われていたら一応聞いて、そして受け流しましょう。大きなメディアが「これが正しい！」と大きな文字で書いていたら、一応読んで、判断はゆっくりとしましょう。急いで決める必要はありません。日本人が考えた行事は、季節のひとつの節目（ふしめ）です。農耕民族である私たちの祖先は、季節の変わりめや長雨のおわる時期、などに宗教心と一緒にいくつかの決まりごとを作りました。そしてそれは、私たちの暮らしを「守る」ためです。決して、それをきっかけに「浪費」するためではないことを、この小さな行事を機会にお伝えしたいと思います。写真は専念寺の中庭の木賊（とくさ）と可憐な赤い椿です。とくさの根元には、昨年の施餓鬼の前日に迷い込んで来た亀が冬眠しています。蛙も冬眠しています。穏やかな春を待っている専念寺です。皆さま、お風邪をひかぬよう、大切になさって下さい。

平成27年2月1日 大黒

